

かやだ
「返田神社本殿」
せきし
諸国一宮の石祠

香取遺産

Vol.28



▲返田神社本殿（上）と諸国一宮の石祠

返田地区宮本に鎮座する

返田神社は、鎌倉時代中期の古文書にも「返田悪王子社」とみえる古社で、軻遇突智神と埴山姫神を祭神とし、かつては香取神宮の摂社として村人の崇敬と庇護を受けてきました。

本殿は間口7尺の間社流造。建立の年代は建築様式から17世紀末から18世紀中頃と推定されます。当社は古来より香取神宮の造営時期にあわせて建造されており、元禄13年（1700）の神宮本殿（重要文化財）造営とともに建てられたと思われま

す。装飾も多く、江戸時代中期の特徴をよく示す建物として、平成6年3月1日に市指定有形文化財（建造物）

に指定されています。

鳥居をくぐり参道を進むと、その両側に同じ形をした石祠が整然と並んでいます。他の神社では見られないものですが、これは諸国の一宮を祀った石祠です。

石祠の近くに「天神地祇」と正面に刻まれた大きな石標が建ち、石祠が建てられた由緒が背面と側面に刻まれています。それによると文化3年（1806）10月に返田村の黒田三右衛門豊昌が発願人となり、国中一宮66個に加え伊勢両宮と天神地祇合せて69社を石祠としたようです。

その昔、日本には66の国があり、それぞれの国で最も格式の高い神社が一宮とされました。伊勢の両宮は

別格扱いで、また天神は天の神、地祇は地の神を総称したものです。

石祠は35基ずつ両側に並んでいますので、実際の数は70基となります。大きさは70cmほどで、それぞれ列の先頭に建つ伊勢内宮（皇大神宮）と外宮（豊受大神宮）の2基だけは、他よりも10cmほど大きいものとなっています。

石祠の正面には、国郡名とその国の一宮の名が刻まれています。当然のことながら、下総国の一宮は香取大神宮と刻書されています。判読できないものもありますが、全国的に有名な神社が並んでいますので、訪れた際にはご覧になってはいかがでしょうか。